

石狩市が目指すこれからのまちづくり

～ みんなでつくる、こんなまち・いしかり ～

(株)富士通総研 経済研究所
蛸子 准吏(EBIKO,Hitoshi)

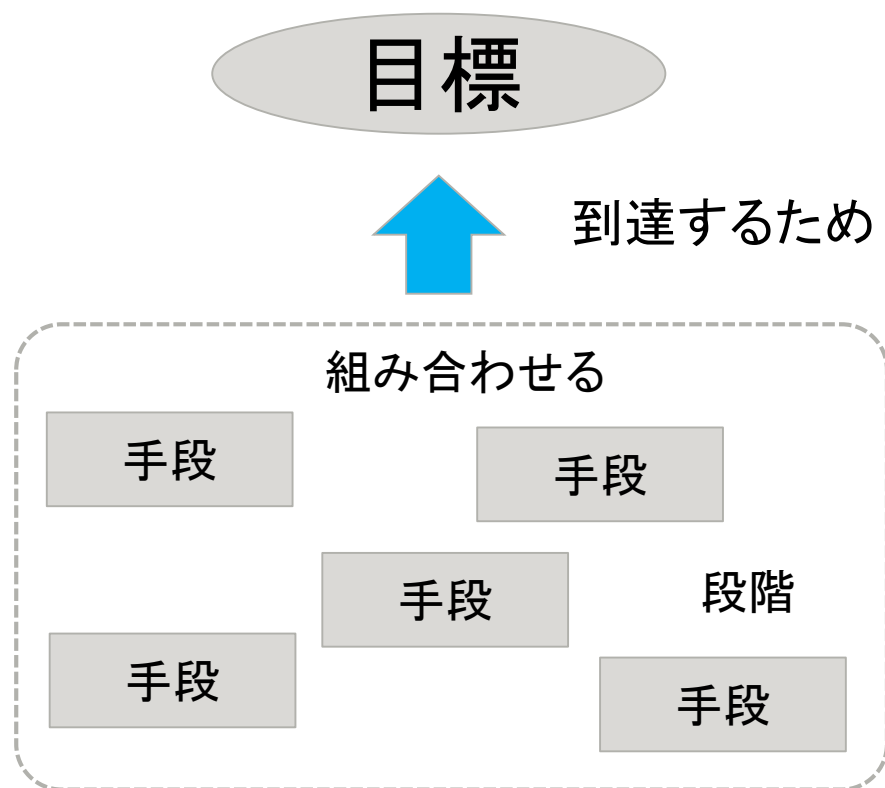
2016年10月2日

(そもそも)計画ってなんですか？

計画とは、将来 実現しようとする目標(目的)と、

この目標(目的)に到達するための主要な手段や段階とを

組み合わせたもの (出典)ブリタニカ国際百科事典



- 経営計画
- 事業計画
- 資金計画
- 学習計画
- xxxx計画
- 総合計画**
- 都市計画
- 福祉計画
- yyyy計画
-

誰が
誰のために
つくるの？
そして、
誰が
実現するの？

総合計画ってなんですか？

地方分権改革を推進するため、2011年に地方自治法の以下の条文を削除

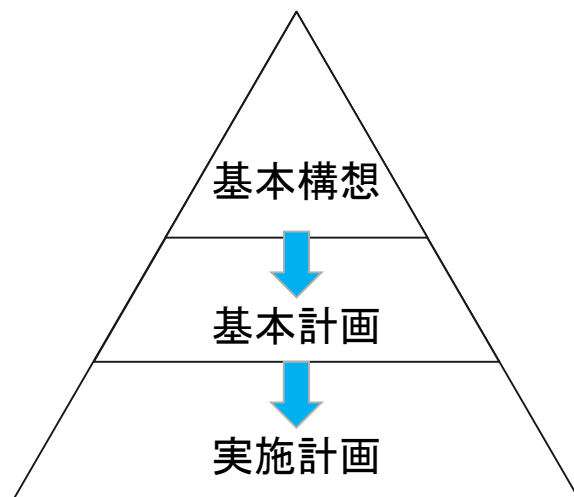
第2条第4項

市町村は、その事務を処理するに当たっては、
議会の議決を経てその地域における
総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、
これに即して行うようにしなければならない。

削除

地方自治体が
独自に決める！

一般的な総合計画の構成



目標

地方自治体(地域)の目指す将来像と
将来の**目標**を明らかにし、
これらを実現するための**基本的な施策**の大綱を示す

10年

政策

施策

実現するために必要な、**手段を体系化**し示す

5年

事務事業

事業内容や実施時期を示す

3年

計画通りに事は進む？：進むんです！→線形的アプローチ

■線形的アプローチの考え方

線形システム：全体は部分の総和とみなせるシステム

→ 初期条件を決めれば結果は予測できる

数学的条件： $f(x+y)=f(x)+f(y)$ 加法性・分割性

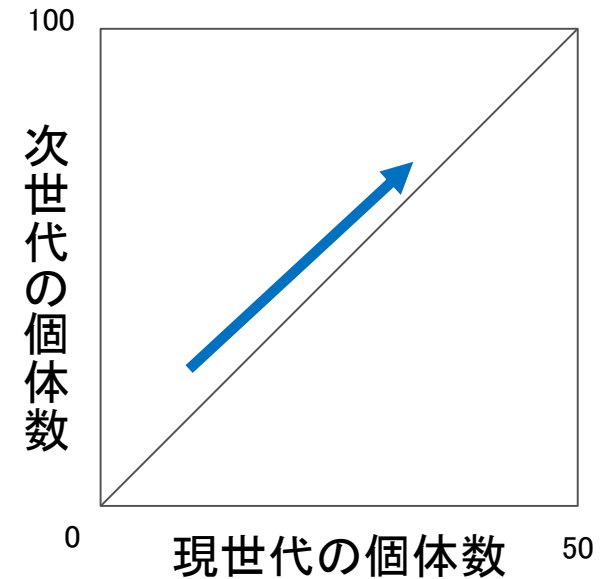
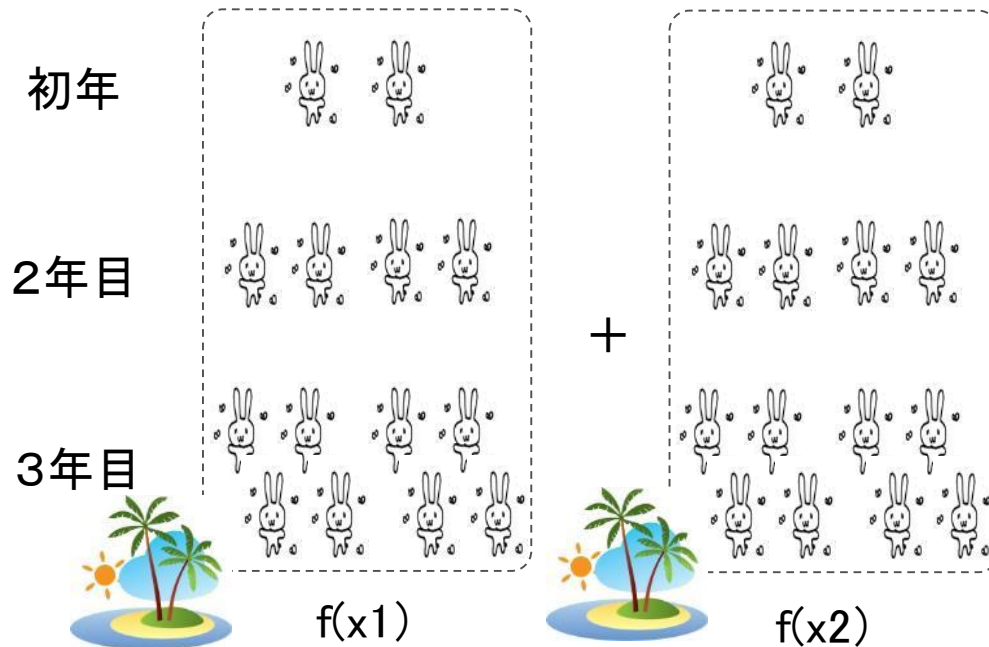
$f(ax)=af(x)$ 斉次性

線形ウサギ：

繁殖の条件 各ペアは漏れなくつがいの相手を見つけ4匹の子孫を残す。

$$y=f(x_1+x_2)=2*x_1+2*x_2$$

何でも
足し算すれば、OK!



(出典)メラニー・ミッチェル『ガイドツアー 複雑系の世界』

計画通りに事は進む？：そんな簡単じゃない！→非線形的アプローチ

■非線形的アプローチの考え方

非線形システム：全体が部分の総和と異なるシステム

→ 初期条件の細かい差異が大きな影響を及ぼす

非線形ウサギ

繁殖の条件 各ペアは漏れなくつがいの相手を見つけ4匹の子孫を残すが、
子孫の何匹かは過剰な個体数が原因となり繁殖前に死ぬ

(因子：誕生率：2、死亡率：0.4、最大扶養能力：32)

ロジスティック写像： $X_{n+1}=RX_n(1-X_n)$ ※Rは係数

足し算には、
限界があります・・・

初年

× 20

2年目

× 12

1つの島

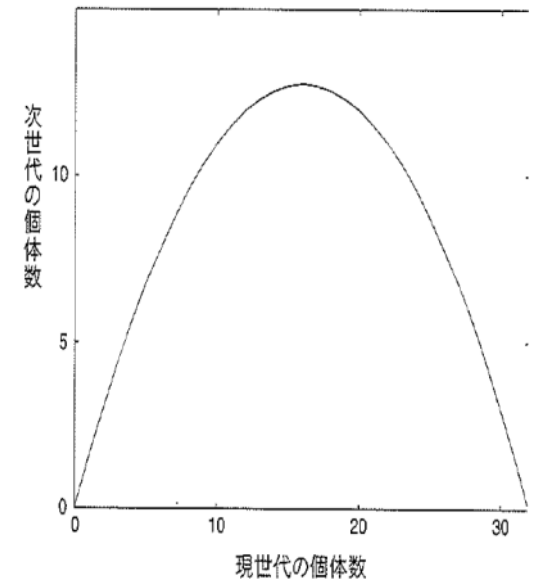
× 10

× 11

2つの島

× 10

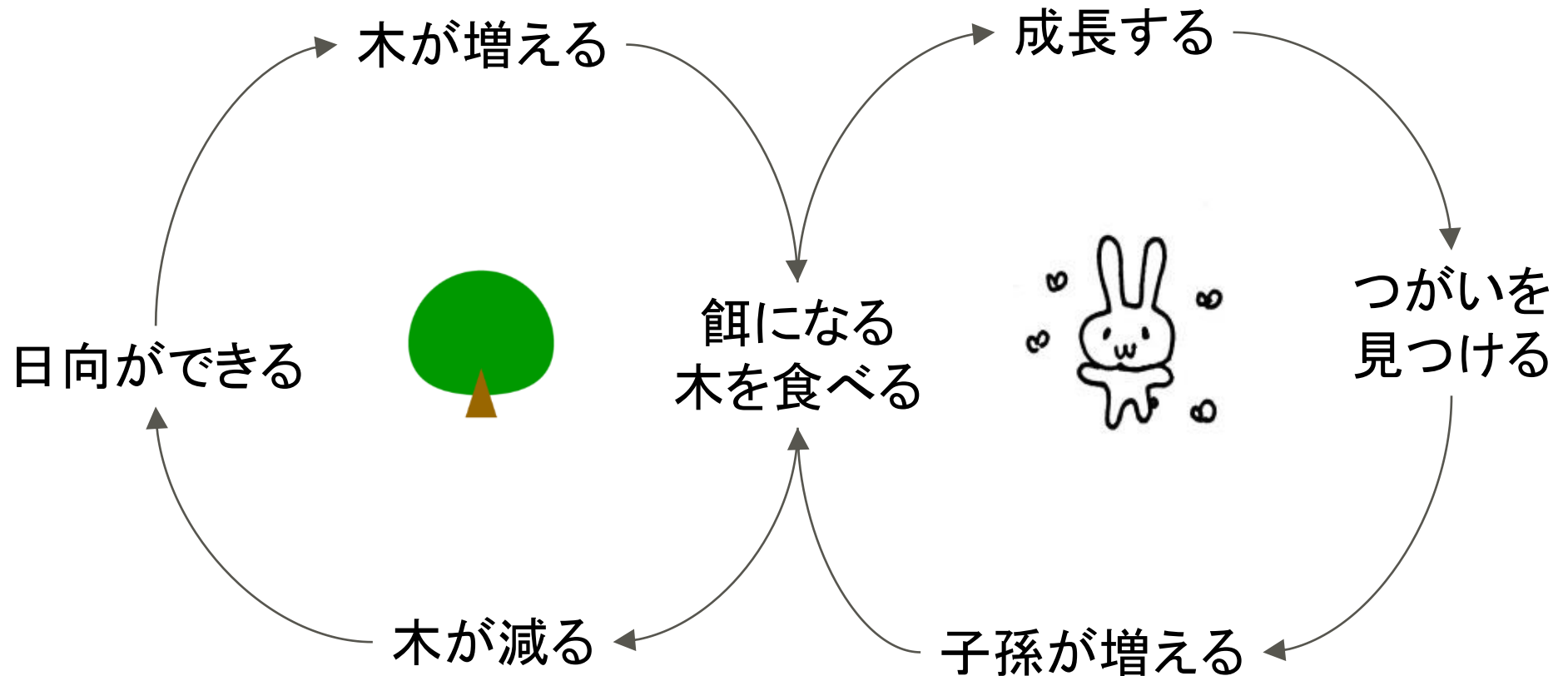
× 11



(出典)メラニー・ミッチェル『ガイドツアー 複雑系の世界』

隠れた前提

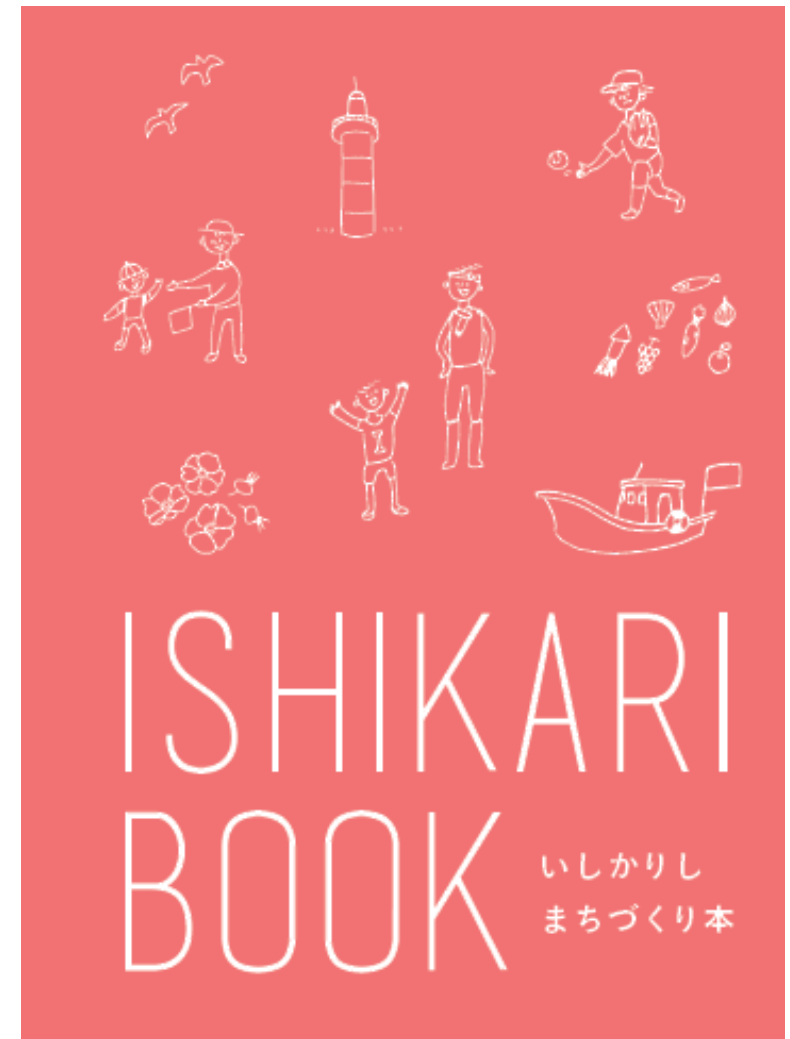
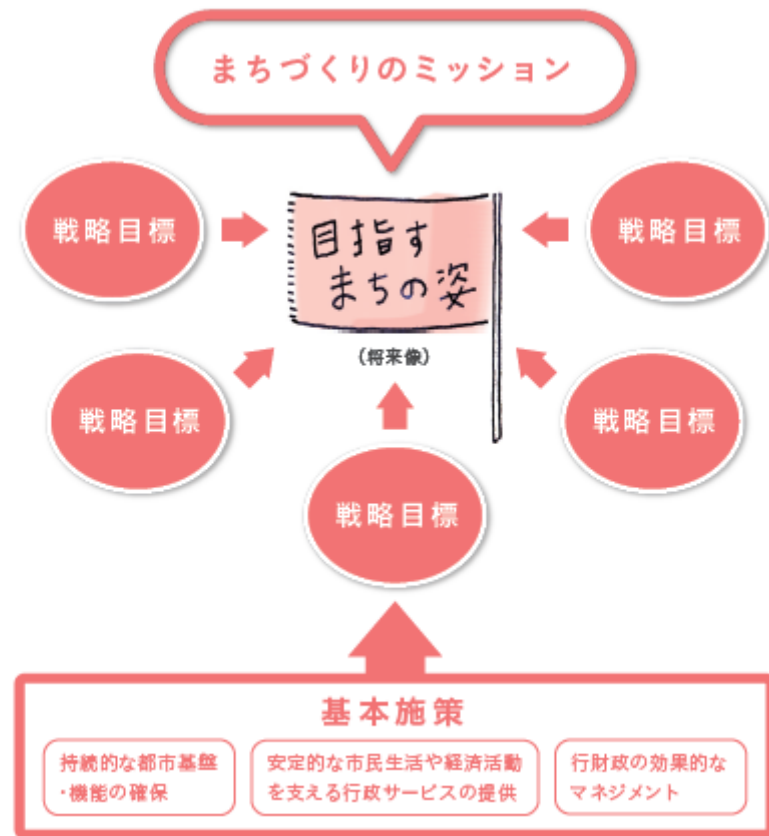
ウサギと木の世代交代のバランスが取れる範囲でしかウサギは増えない



ISHIKARI BOOK って何？

■ 一家に一冊配布される、まちづくりの読本です。

→ 行政だけでなく、「市民」みんなの計画づくりの読本



石狩市が目指す、これからのまちづくりの進め方

■新しい総合計画は、「動かす」計画です。動かす主役は、「市民」です。

まちづくりの進め方

目指すまちの姿の実現に向けてどうするのか？

「住み続けたいまち・住みたいまち」＝目指すまちの姿（創造、絆、環境）の実現に向けて、協働や連携、成長を原則としてまちづくりを進めていきます。

そして、まちづくりを進めていく過程（プロセス）の中で石狩PRIDEの醸成^{※1}を目指します。

※1 醸成：ある気運や状態などを徐々に作り出すこと

※2 まちづくりの分野：基本計画に示される、行政運営における暮らし・福祉・産業などの分野のこと

成長

まちづくりに関わる人や
地域が共に高めあい成長する

様々な取組が、市民や地域に広がり、人
や組織、地域が成長していくまちづくりを
進めていきます。

「住み続けたいまち・住みたいまち」

目指すまちの姿（将来像）

創造

絆

環境

達成度

連携

横断的な連携により
かけあわせてたくさんの効果を
まちづくりの分野^{※2}にとらわれず、関係する
人々や活動を横断的に連携しながらまち
づくりを進めていきます。
また、様々な事業や取組を連携すること
で、より効果が高まるようにします（1+1
は2ではなく、5や10にする）。

協働

市民と行政と一緒に

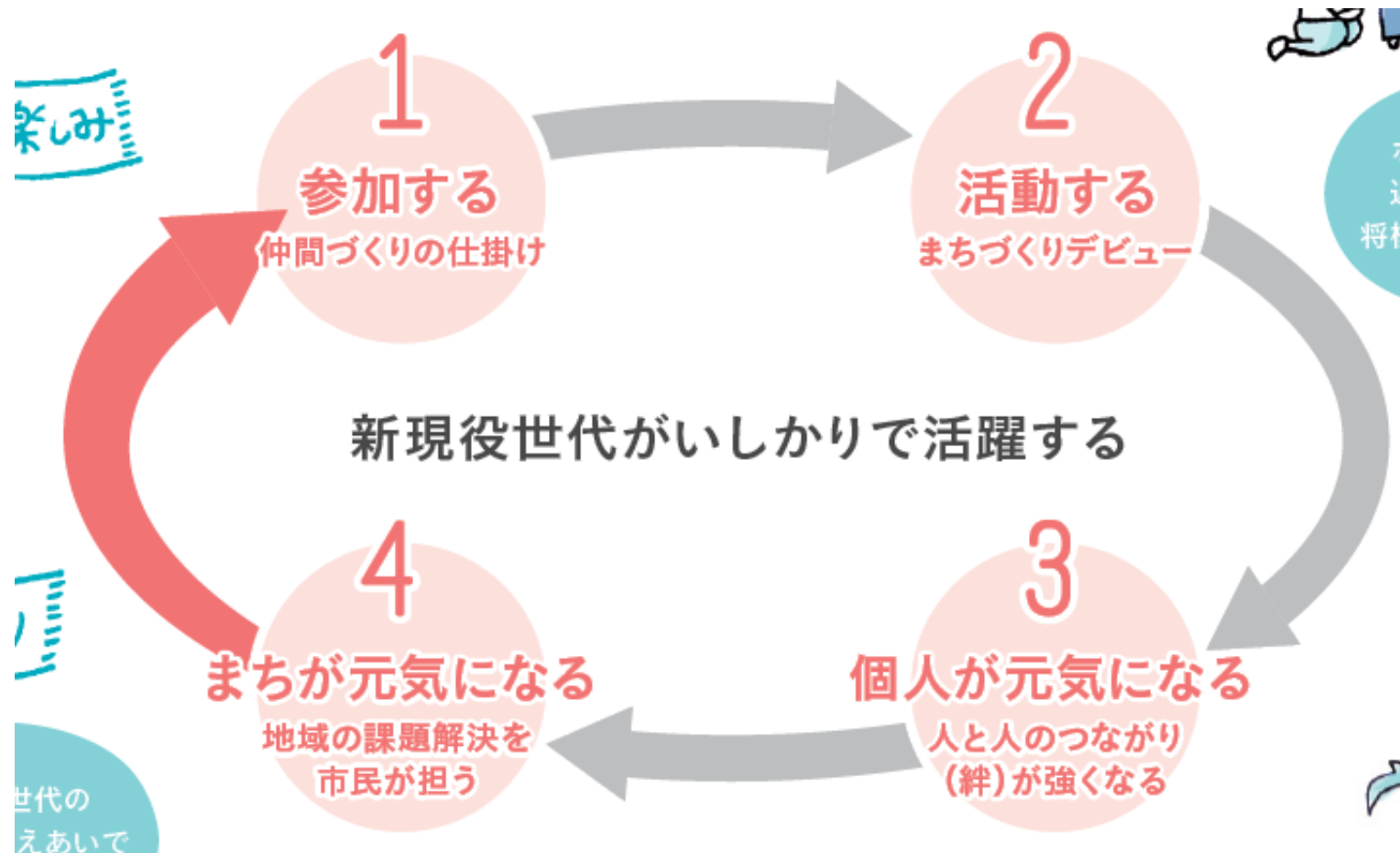
まちづくりは、市民だけで行うことはむず
かしいですし、行政だけで行うものでも
ありません。市民と行政がパートナーとなり、
ともに支え合う関係を大切にしながら
進めていきます。

いま



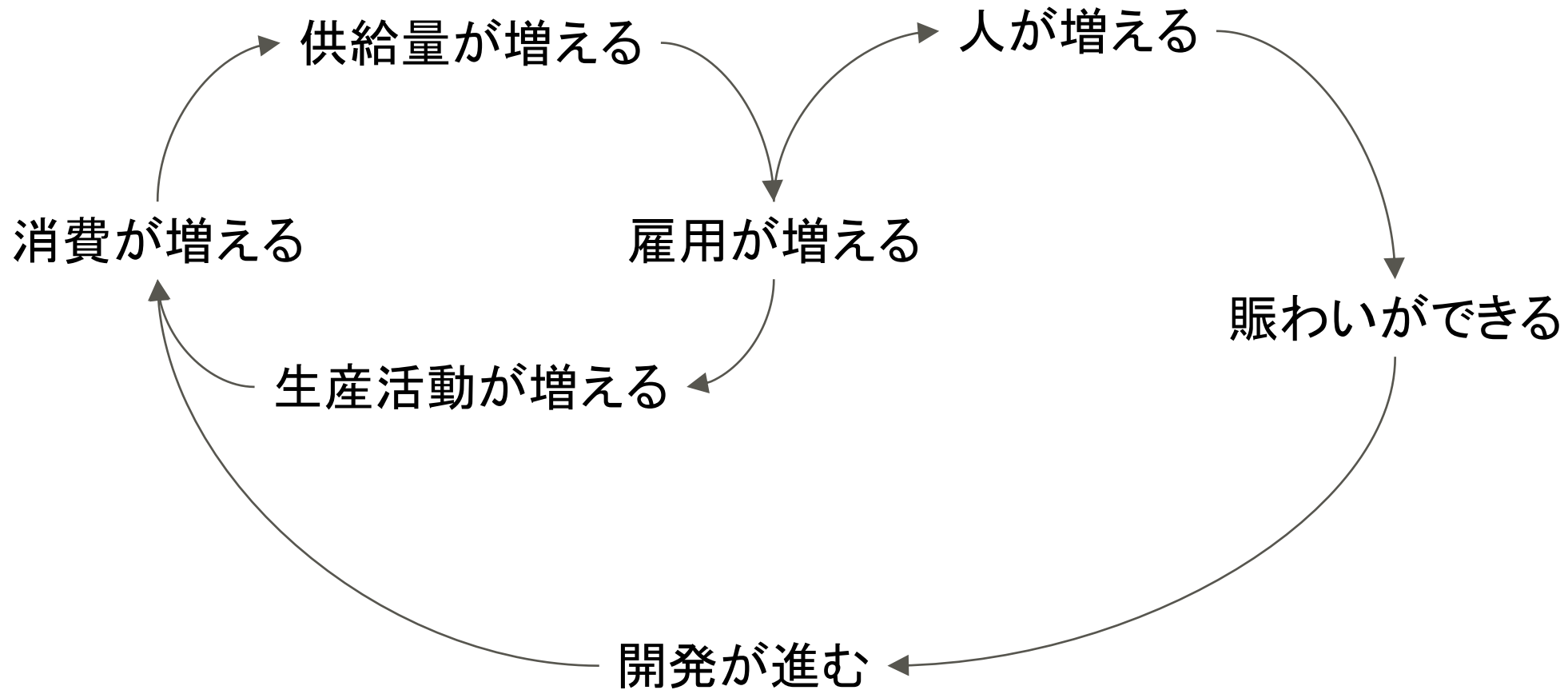
時間

- みんなで、試行錯誤しながら、まちづくりの戦略(シナリオ)をつくっていきます。



高度成長期のまちづくり

全て、人が増えることが前提



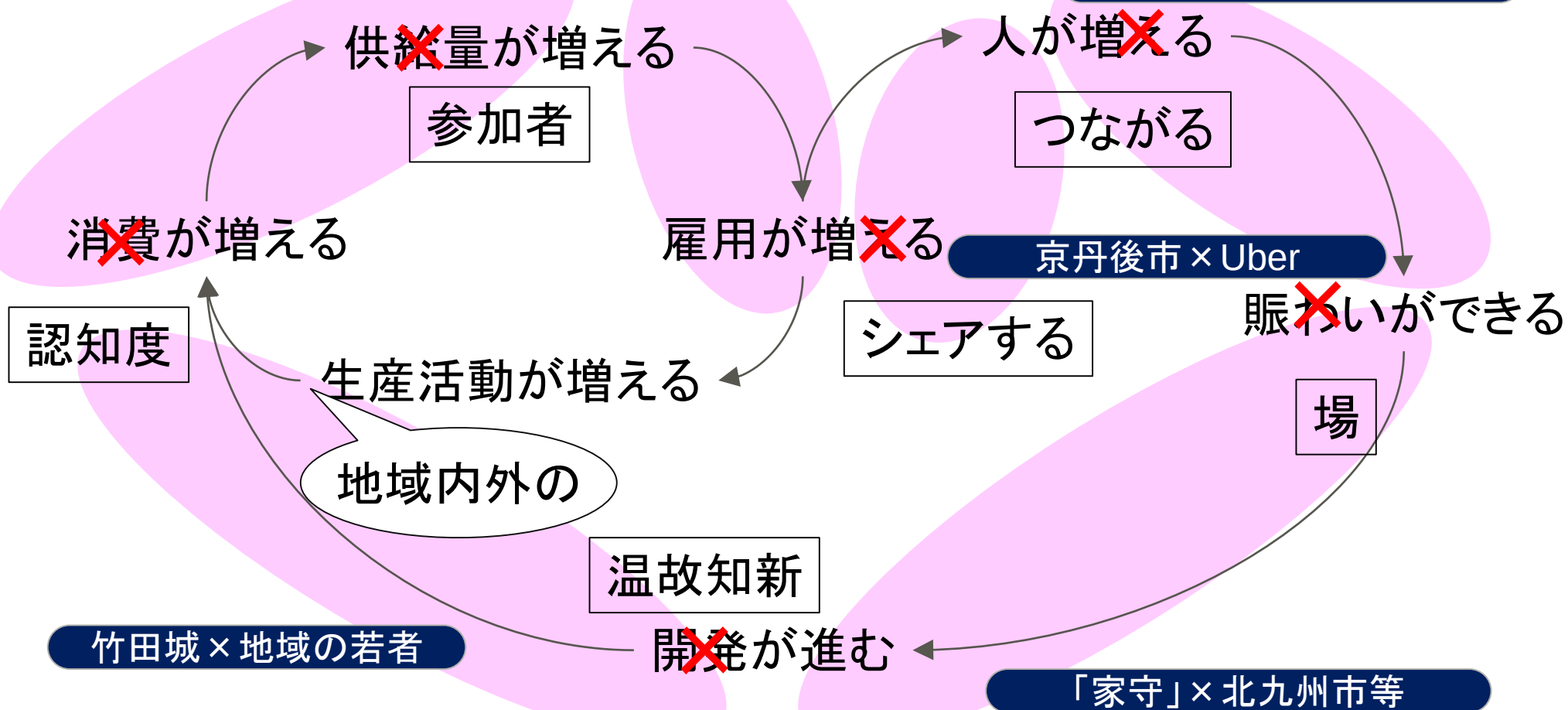
まちづくりの動向

人は急には増えない。人が増えないことを前提とした地域づくりは？

事例①: 上勝町

事例②: 下条村

事例③: 伊万里市民図書館



事例①：徳島県上勝町

■ 葉っぱビジネス。眠っていた地域資源を活かす

- 徳島県上勝町 人口：1,648人、826世帯 高齢化率：約50%
- 高齢者を中心とした農家が「副業」として、「つまもの」として使用される葉っぱや草花を栽培し出荷
- 約200軒の農家が参加。うち70軒が年間を通じ参加
- 1988年より事業開始：年商160万円、2003年に2億円、現在は5億を突破。全国シェアの約8割を占める。
- 約20名が上勝町に移住
 - 年収平均300万円、「スターいろどり農家」は1000万円を超える
- 1998年に「上勝情報ネットワーク」という情報システムを導入。需要と供給のマッチングをはかる。農家は、システムの利用料を手数料として支払う。



事例①: 徳島県上勝町

上勝情報ネットワーク(1998年): はっぱビジネスを支えるPOSシステム



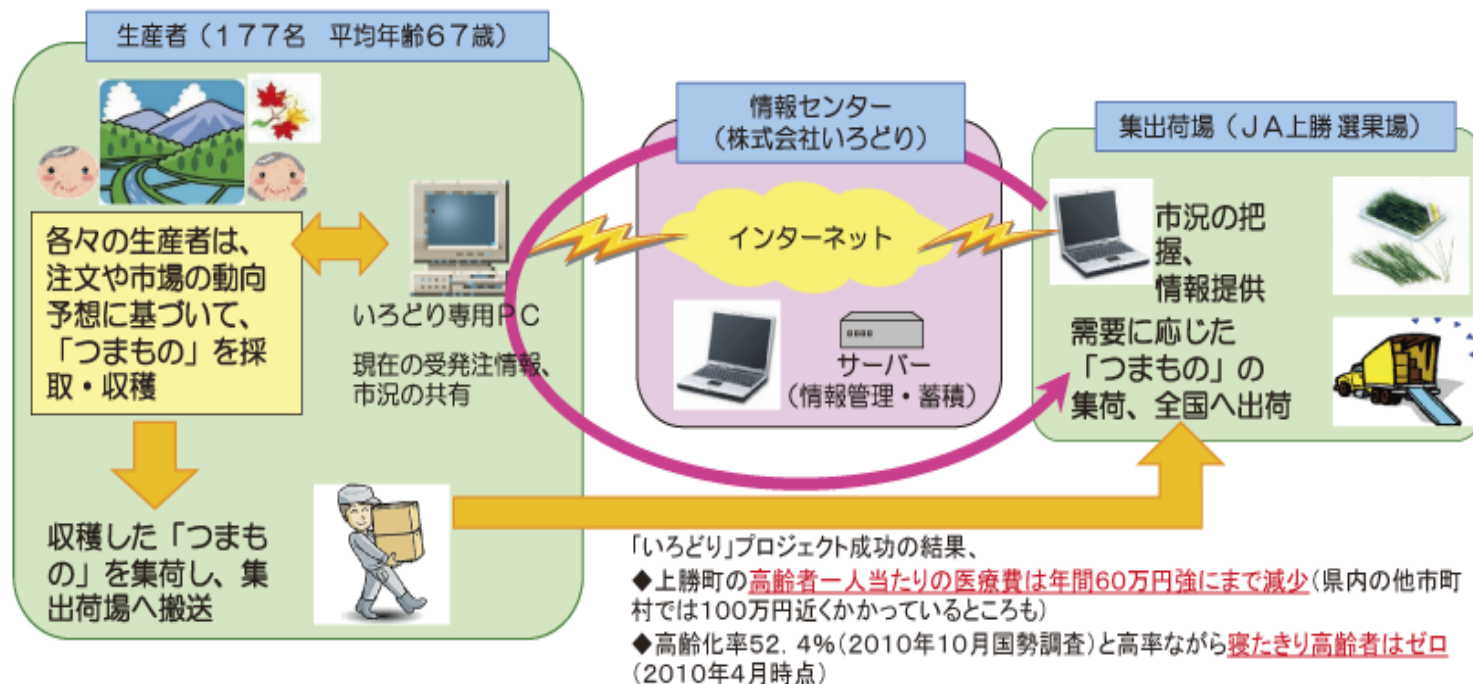
①注文取り: 早いもの勝ち



②収穫: 自宅の裏庭



③出荷: 農協に持ち込み



(出典) 総務省『情報通信白書』・日経BPnet

事例②: 長野県下條村

■ 奇跡の村。住民の力で財政を健全化し、若者を呼び込む

- 人口:3,891人、高齢化率:32.51%
- 出生率:1.86人(全国平均:1.34人)
- 実質公債比率(借入と返済の比率):-5.4% 全国3位
- 1992年から町と住民が一丸となり財政改革と若年層の移住政策に取り組む。
- 町道は、「資材支給事業」、住民が自らつくる。(町は、必要な資材、重機の燃料代等を支給)

■「資材支給事業」の特色・効果

- ①地域の問題を、住民が自ら考え、自ら汗を流して対応することにより、「自助・互助・共助・公助」の考えが生まれ、村民総参加の村づくりの基本となっている
- ②本事業を取り入れたことにより、住民の細かい要望に「事業の先送り」をすることもなく、迅速且つ的確に対応できる
- ③住民が目標をひとつにし全員で作業することにより、各地区内での親睦と交流の輪が広がっている
- ④住民が自ら作った施設であり、共有の愛着(道路愛護)の精神が生まれる
- ⑤補助事業のように工事内容等の制約がないので、地元の意向に添った独自の施工ができる
- ⑥コストが安くあがるため、ほとんどの箇所が単年度で完結させることができる
- ⑦道路を拡幅する際も、地権者自身が利用し施工する道路となるので、用地交渉も容易にできる
- ⑧施工後の管理も、地元施工の観点から地元で自主的に行ってくれる



事例③: 佐賀県伊万里市民図書館

■ 市民参加での図書館づくり。市民とともに育つ「滞在型図書館」

- 1996年に設立。図書館の誕生日を市民が祝う。図書館の利用登録率は7割を超える
- 1986年 「図書館づくりを進める会」発足。市民とともに図書館づくりをスタート
- 1991年 移動図書車「ぶっくん1号」巡回開始。月500kmを走破。
- 1994年 図書館起工式 市民向け中間見学会を実施。60人が参加
- 1995年 新図書館完成。本の引っ越しに市民200人が参加。

図書館市民活動団体「図書館フレンズいまり」発足 会員395名(2016年5月現在)



(そもそも)地域資源ってなんですか？

3つの資本を更に活かすための地域固有の財産です



経済
資本

経済的価値に
変換できる資本



社会関係
資本

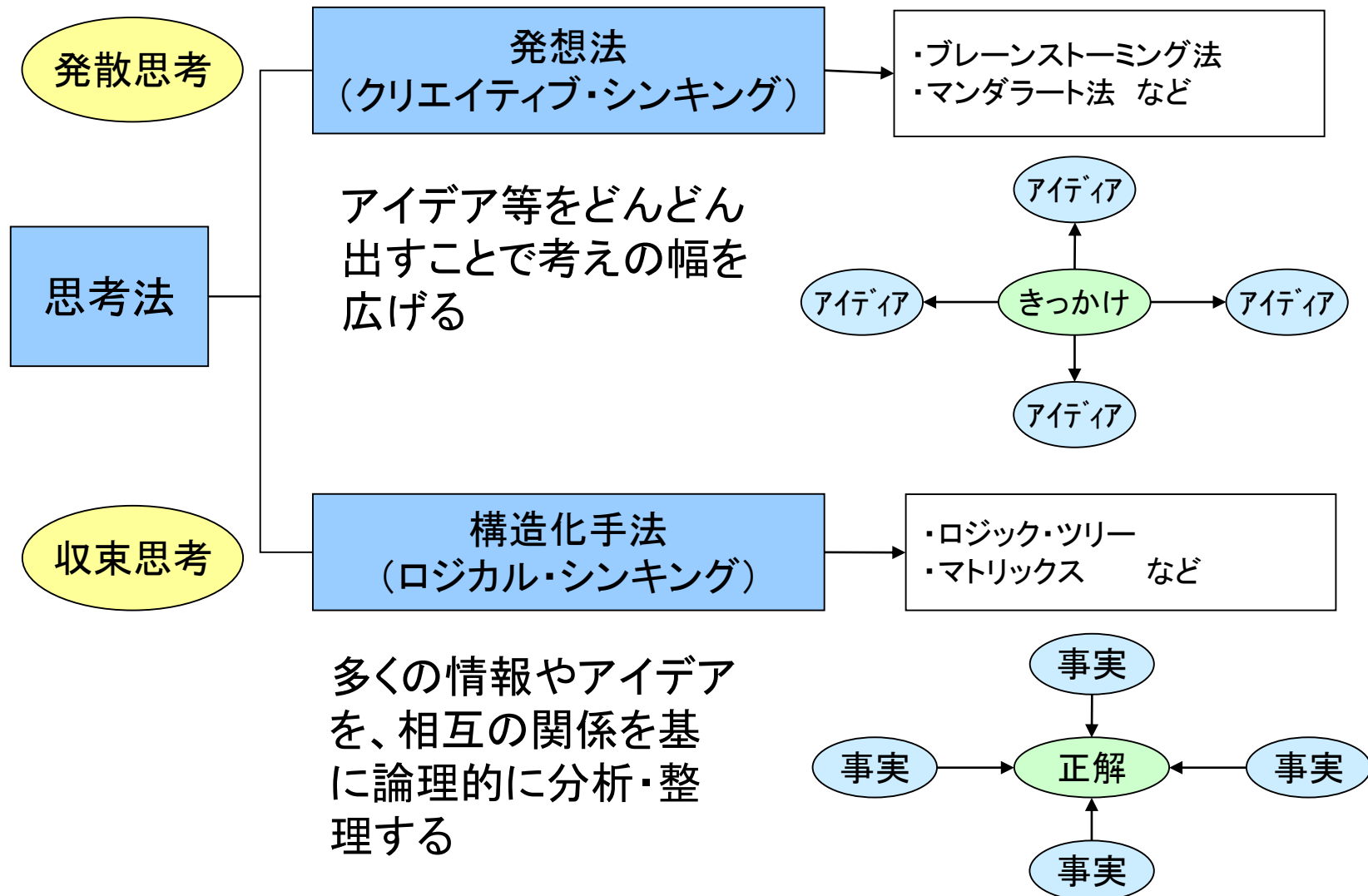
人と人との
つながり



文化
資本

客体化: 芸術作品等
制度化: 資格等
身体化: 立ち振る舞い、センス等

2つの思考法



2つの思考法



【問題】
輸送途中に商品が
不良化してしまう

原因追求型問題解決

【問題解決のプロセス】

「分析」→「問題発見」⇒「対策」

【問題解決のアプローチ例】

① 問題を分析:

「**輸送プロセス**の問題点調査」

② 問題を発見:

「倉庫から出荷する際のトラック
積込作業に問題あり」

③ 対策を検討:

「出荷作業の自動化」

目的追求型問題解決

【問題解決のプロセス】

「目的」を追求し自由に発想

【問題解決のアプローチ例】

① 目的を確認:

「市場に正常な商品を確実に流通
させるため」

② 目的を追求:

「市場に商品を流通させる最も
理想的な手段は何か？」

③ 目的達成の手段を検討:

「流通倉庫を売却し、工場から直接
トラックに積込み出荷」

2つの思考法

原因追求型思考	目的追求型思考
・分析思考(部分から全体へ) ・「なぜ」からはじまる ・過去の問題(犯人捜し) ・過去から学ぶ ・疑惑ゲーム ・正しく処理する ・情報は多いほどよい ・問題の専門家 ・知識は力なり ・分析、疑い、置換、もぐらたたき ・防御的に参加する ・類似性に注意する ・要素還元、対立、競争 ・ゼロ・サム(引き算、割り算) ・真理の探究 ・論理・左脳 など	・展開総合思考(全体から部分へ) ・「何のために」からはじまる ・将来の解決策(恋人捜し) ・未来に学ぶ ・信用ゲーム ・正しい問題にとりかかる ・目的”適”情報収集 ・解決策の専門家 ・知識の活用は力なり ・考え、信じ、夢見て、行動 ・積極的に参画する ・ユニーク”差”に注目する ・全体、相互関連、共生 ・ポジティブ・サム(足し算、掛け算) ・どうあるべきかの探求 ・イメージ・左右脳 など